

(AO入試)

平成30年度入学試験問題

小論文

(医学部 保健学科 放射線技術科学専攻)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙1枚と下書き用紙1枚を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 字数は800字以内とする。
7. 解答用紙の指定された欄に、受験番号を記入すること。
8. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
9. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題

国立がん研究センターのがん統計データによると、統計開始後がん罹患数は年々上昇している(図1)。国内では厚生労働省を中心に、がん対策基本法(平成18年施行)に基づき、5年ごとにがん対策基本計画が発表され多くの団体・組織による取り組みが行なわれている。最近では、第3期がん対策基本計画が閣議決定され(平成29年10月24日)、がん予防・がん医療の充実・がんとの共生といった3分野にて施策が発表された(図2)。これらを支える基盤整備として重要なのが、がん研究・人材育成・がん教育・普及啓発であるとされ、今後国全体として取り組むことが見込まれる。

著作権の関係上、省略します。

図1 国内におけるがん罹患数の推移

著作権の関係上、省略します。

図2 第3期がん対策推進基本計画の概要

このことから当専攻に関わる放射線医療の専門家として、診療放射線技師や医学物理士の役割は益々大きくなる可能性が高い。一方、ハード面では医療技術を支援する機器が年々改善され普及するも、医療財政の面では不安要素が残ること、また地域格差の懸念など医療社会の問題も複雑に絡む。

以上の動向を踏まえ、がん克服のための重要な職務とされる診療放射線技師、医学物理士または研究者のいずれかの視点に立ち、がん克服に向けた新たな提案を800字以内にまとめなさい。